

感染症情報 6月6日～12日

府下小児科199医療機関（堺市19）から

①感染性胃腸炎	1496例	（堺市 92例）
②溶連菌感染症	616例	（堺市 45例）
③ヘルパンギーナ	278例	（堺市 35例）
④おたふくかぜ	240例	（堺市 20例）
⑤咽頭結膜熱	189例	（堺市 7例）

が報告された。

感染症は全体として前週から7%増加し、第1位が感染性胃腸炎、第2位が溶連菌感染症は変わらず、第3位にヘルパンギーナが入った。先週7週ぶりに減少した溶連菌感染症は再び前週より4%増加した。おたふくかぜは逆に前週より23%減少したものの、泉北でも流行している学校・園がある。髄膜炎の合併が多く、1000人に一人程度に難聴を合併する。任意接種ではあるが2回のワクチン接種をしておきたい。夏型感染症のヘルパンギーナが54%と大幅に増加して第3位となった。同じく夏型感染症の咽頭結膜熱（プール熱）も2%増加し、同じアデノウイルスによる扁桃炎は高熱が長引くケースも多い。両疾患ともに全国的にも増加傾向にあり、手足口病を含めて例年暑くなると増加するので注意したい。

はしかと風疹の報告はなかった。